



＜ 学校教育目標 ＞

ひとりになれる ひとつになれる

※10年後に必要な力【挑む・わたし!・夢中・らしく・誰とでも】をひとりひとりに付け、子どもたちが抱く「自慢できる学校像」を広げていきます。

■「子どもたちから見た岩小のよさ」(R4)

- ① 「生活の3本柱」がしっかりできる
- ② スマイル(笑顔があふれる学校)
- ③ 学年を越えてなかよし・やさしい
- ④ みんな明るくて元気
- ⑤ 児童会活動
- ⑥ 学校目標「ひとりになれる ひとつになれる」



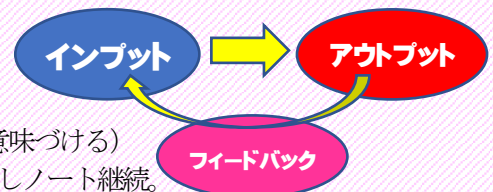
■ 10年後の子どもたちに必要な力 ■

い どむ	わ たし!	む ちゅう	ら しく	だ れとでも
失敗を恐れず、あきらめずにチャレンジ	自分の考えをもち、自ら判断し自ら行動	「好き・楽しい」にとことん没頭	自分の夢をもち、自分のよさを大切に	自分とは違う他者を認め、協働できる

R6の核心:子どもの主体性を「探究」で育む

■取組①: 教科学習の探究化 … 学びの成果は子どもたちの「話す言葉」「書く言葉」に表われます。豊かな言葉は教室の授業の質を高めます。教師が子どもたちの言葉にこだわっていきます。

- ・導入: 「問いの充実」子どもから生まれる疑問形の問いの設定
- ・展開・まとめ: 学びを深める「アウトプット」と「フィードバック」
「アウトプット(体を通す)」話す・書く・教える・行う
「フィードバック」(友だちや既習事項、日常生活とつなげ、比べ、意味づける)
- ・「書くこと」: 思考・判断の総体と考える。予想・まとめの記録やわたしノート継続。



■取組②: 総合・生活科の探究化 … 学級全員で一つのことに向かい、皆でやり遂げた体験は、子どもたちの中に自分や学級への誇りを生み出します。探究のエネルギーが高まります。

- ・ワクワクと思いがけなさや出合う題材選定 ・題材の価値や年間計画(総合設計図)の練り上げと調整
- ・アウトプットデー(参観日)での過程や成果の発表

■取組③: 子どもたちが創る児童会・学校行事 … 行事は子どもの主体性と節を育てる重要な場となる。

- ・子どもたちの発想や願いから始める行事企画(子どもが創る運動会・児童会企画など)
- ・自分の言葉で伝えるなかよし学級連絡・児童集会

■取組④: 自分の好き・楽しいを掘り下げる「まちゼミ」 … 探究する楽しさワクワク感を実感する機会にする。

- ・子どもの「好き」「楽しい」から講師選定、2回目はチームでアウトプット(実演・プレゼン発表など)
- ・岩村田の大人や保護者といった多様な大人から学ぶ機会。CSボランティア組織の拡充も目指します。

■取組⑤: アウトプットとフィードバックとつなげる家庭学習

- ・子どもたちにとって必然性のある家庭学習(基礎基本の定着+自分学習)とアウトプット機会の位置づけ

ベース1: ちがいに寛容な心が育つ教室

取組① ちがいに学び合う教室

- ・自分とちがう考え・やり方・スピード・好き嫌いを知り、ちがいから学び合う学級経営。マイノリティー(少数派)を尊重できる教師。
- ・学習や学級経営の土台をつくる「聴き合う」教室
- ・特支COから学ぶ特別支援教育(職員会)

取組② 集団不適応を想定した生活の創出

- ・幼保との架け橋教育。遊びを据えた低学年教育
- ・緩やかな4,5月の生活の保障。

ベース2: 小さなことをどの教室でもできるまで

取組① 生活の3本柱の再確認

- ・「あいさつ」目を合わせ、声を掛け合う関係醸成
- ・「靴そろえ」整頓は心の落ち着きや乱れの現れ
- ・「清掃無言」時や場を大切にする集団と自分育て
- ・児童会活動とつなげた実践と定期的な振り返り

取組② 継続の場の再確認

- ・朝の時間を通じた「読書活動」「基礎基本定着」
- ・集会を通じた歌声・体・発信力・自制心の育成

取組③ タブレット利用から図書の利用へ